

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801073		
法人名	医療法人 翌檜会		
事業所名	グループホーム「ばらいろ」	ユニット名	1
所在地	福岡市東区名子1-1-5		
自己評価作成日	平成29年8月22日	評価結果市町村受理日	平成29年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年8月28日	評価確定日	平成29年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的雰囲気の中で、入居者が落ち着いて生活できる支援しています。色々なイベントを行い家族と一緒に参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市東区にある“グループホーム「ばらいろ」”は開設から15年を迎える。馴染みの職員も多く、管理者と職員が結束し、家族のご協力も頂きながら日々の生活支援が行われている。「ばらいろ」の名前は、“人生ばら色”と言う意味が込められ、理念にある「入居者や利用する方々が生きる事に意義と喜びを見出せるように援助する」事を大切にされている。管理者を中心に地域交流も深めてこられ、地域の空き缶拾いに参加されたり、老人会による“ひまつぶしカフェ”や地域の餅つき大会に参加し、散歩の時は地域の方と挨拶をされており、地域の中に馴染みの方々が増えてきている。あおば保育園の園児の訪問も毎月あり、おやつ作りやゲームを楽しまれている。入居者の思いや要望を把握し、香椎花園で観覧車に乗る事もできた。併設施設の温泉を利用する事もでき、法人全体で災害対策や研修体制などを強化している。医療連携もできており、今後もアセスメントと介護計画の基で自立支援や日々のケアの実践に努めていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげていける様日々努力している	地域密着型サービスとして「地域に開かれた施設を目指す」という理念もあり、公民館で開催される「ひまつぶしかフェ」に入居者と参加されたり、保育園児との交流を楽しまれている。「各職種の専門性、人間性の向上」も目指しており、法人全体で研修なども行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流していけるように、地域活動・行事にできる限り参加を心掛けている	保育園児の訪問も毎月あり、入居者も楽しみにされている。老人会主催の「ひまつぶしかフェ」に参加し、馴染みの方も増えており、職員と自治会主催の餅つき会や公民館祭り(作品展示)、空き缶拾い、草むしりに参加したり、併設する老健で小学校のブラサント等も楽しまれている。	地域交流の成果が出てきており、ホームの理解者も増えている。今後も更に地域の方に遊びに来て頂けるよう、ホーム内でのサロンを企画したり、地域のグラントゴルフの参加等を法人全体で検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かさきれてないように思える。今後努力していく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしていけるよう日々努力している	会議ではホーム行事(そうめん流し等)と合わせて行う事も多く、活動報告等も行われている。入居者、家族、地域包括職員、他事業所の方と共に、29年6月から老人会長・副会長も参加して下さり、地域情報を教えて頂いている。今後も自治会長や民生委員等に参加依頼をしていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問等があればその都度連絡していて、その際に取り組んでいることを伝えたりしている	運営推進会議では地域包括の方から振り込め詐欺や高齢者虐待、熱中症予防等の情報を頂いている。疑問点や課題は随時相談し、ホームの現状を理解して頂いている。別のホームの会議にも参加し、地域包括の方と情報交換している。地域貢献として老人会のホーム見学を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んではいるが、すぐに外に出ようとされる。本人退居後は全てオープンにしている	日中、玄関は開錠している。見守り等を強化し、玄関にセンサー等を設置している。行動障害が見られる時は原因を把握し、ご本人が少しでも安心できる方法を検討している。夕方に不穏になられる方には大好きなぬいぐるみを押し車に乗せるなど、穏やかに過ごせるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などに参加し、防止に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修に参加したり支援できるようにしている	契約書に制度の記載があり、管理者が入居時に説明している。制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換を続けている。職員は系列施設の全体研修で権利擁護の研修を受けており、GH協議会や福岡市の新人研修で権利擁護の勉強を続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できる限り反映できるよう努力している	入居者との会話を大切にされている。「観覧車に乗ってみたい」等の要望もあり、香椎花園で叶える事ができた。入居者会議も毎月行われ、入浴や散歩の順番、座席等を話し合い等で決めている。運営推進会議の時に家族同士の交流もあり、面会時も含めて要望を伺う機会になっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	聞く場を大いにもうけ、できる限り反映させていきたいと考えている	職員の意見は多く、行事や業務内容に活かされている。他のホームとの交流希望もあり、双方の運営推進会議に参加したり、月1回の交流の機会も作られている。会議で採用した意見(ケア内容)は1ヶ月実施し、更なる検討を続けている。人事異動も法人全体で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	行っている	事務長と管理者が面接し、採用時は初任者研修修了者で、優しさや笑顔を大切にされている。勤務希望も伺い、現状に応じて配慮するようにしている。職員個々の能力(家事全般ができる、対応が優しい等)の發揮と共に、得手不得手も把握し、職員同士の助け合いも行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいる	「利用者を尊重し、個々に適したサービスを提供する…」という理念を共有しており、ご本人の寂しさや不安など、行動障害の背景に向き合うように努めている。管理者は“言葉遣い”に厳しく、必要に応じて職員に注意している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めて行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの運営推進会議に参加したり、来ていただいたりして月1回交流会を行っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	わからないことは全て聞いて答えを出し、なるべく不安を残さず安心して頂けるようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いていけるよう努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いていけるようにしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めているが、なかなか行けていない	毎月第1火曜日に開催される“ひまつぶしカフェ”に入居者も参加し、馴染みの方との交流を楽しまれている。家族と仏壇参りに行かれたり、馴染みの美容室に行かれる方もおられる。センター方式を活用し、生活歴を把握しており、今後も家族との交流の機会が持てるように仲介していく予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にカンファやミーティングを行って検討している	センター方式を活用し、回想法や音楽療法も取り入れ、入居者個々の生活歴や趣味、要望などを把握している。意思疎通が難しい方も、表情や様子から思いを汲み取るようにしている。「観覧車に乗りたい」等の要望も引き出し、叶えられるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	ミーティングで日々のケアの振り返りをしている。主治医から医療面のアドバイスを頂き、食事や排泄、入浴等の支援内容を盛り込むと共に、「洗濯物たたみ」「散歩」等の役割や楽しみも記入している。日々の生活で注意すべき病気もあり、「緑茶で口腔清拭」等のケア内容も記入している。	24時間のケア内容を検討されている。今後もアセスメント内容を増やすと共に、「できること」「できそうなこと」「介助の理由」「疾患の留意点」等も記録し、ご本人のための自立支援の短期目標、ケア内容等を計画に盛り込む予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録を熟読、スタッフ間での情報交換共有し努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	協力医療機関(月2回)と歯科医師の往診があり、系列のPT・OT(月1回)や管理栄養士からのアドバイスも頂いている。職員の観察力も深く、異常の早期発見に繋げている。受診時は管理者や看護師が同行し、必要に応じて家族も一緒に医師の説明を聞いて頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院許可がでたら退院時カンファに参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り取り組んでいきたいと思っている。	ご本人や家族に重度化した場合の意向確認を行い、重度化・看取りケアの同意書を頂いている。24時間体制で主治医から指示を頂く事ができ、急変時の対応も迅速に行われている。終末期ケアの経験はないが、管理者や看護師が駆け付ける体制があり、老健の看護師との連携もできている。必要に応じて夜勤を2人体制にする予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	繰り返し行うことでパニックにならない様にしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだまだである。今後築いていきたい。	併設施設と訓練している。自主訓練も年4回行い、28年度は消防署(防災センター)と訓練を行い、火災や地震、洪水等の訓練と共に、不審者を想定した訓練も行われた。自家発電があり、災害時に持ち出すリュック(水、飴玉、パッド等)も準備している。29年度は夜間に訓練を行う予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応する様スタッフに指導している。	「丁寧な言葉遣いと丁寧な態度」と言う言葉を事務所に掲示し、言葉遣いに配慮している。入居者個々に触れて欲しくない話題があり、会話の時に配慮している。個人情報が出ないように、職員は申し送り時の声の大きさ等に配慮し、法人研修で個人情報の管理の指導を徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々入居者のレベル低下に伴い、出来ることが少しずつ減ってきているが、出来る限りのことは一緒に行っている。	併設施設で調理しているが、職員や家族からの差し入れ(野菜、果物)等で一品料理を作る時も多い。畑の紫蘇とトマトを使って季節の料理を追加したり、彩りの良い盛り付けも好評である。入居者も筍の皮むき等を楽しまれ、梅干し、らっきょう、みょうがの酢漬け等を一緒にされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している	入居者個々の排泄パターンや希望に応じた個別支援が行われ、紙パンツを使用する方の失敗も減り、布パンツに変更できた方もおられる。夜中のおむつ交換は安眠との関係を考慮し、排泄時にトイレの扉を閉める事が困難な方には、羞恥心の確保や安全面を考えた対策を検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを食べたり、朝食前に牛乳を飲んだりして予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ支援している。 外出の前日に入浴したり、病院受診前に入浴したりしている。	入浴好きな方が多い。湯温の希望も伺い、愛用のシャンプーを使用する方もおられる。職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれており、柚子湯も楽しまれている。併設の老健に人工温泉があり、入浴する時間を工夫し、ゆったりと入浴できるようにしている。体調に応じて2人介助も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努める努力をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏は外出はなるべく避けて、気候の良いときに外出を多く取り入れている。	周囲の田んぼを眺めながら散歩を行い、お花を摘まれたり、地域の方と挨拶を交わされている。香椎花園に全員で行き、観覧車に乗られた方もおられ、マクナルドでソフトクリーム、明太子工場でお弁当を食べ、ジョイフルや喫茶店(NANの木)で食事を楽しまれた。ペイサイトや空港にドライブし、車中から大型船や飛行機を楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が財布を持っている方は支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今のところは手紙のやり取りはない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に工夫している。	庭に季節の花を植えており、入居者と花を摘み、花瓶に活けている。リビングは清潔に保ち、昼間はカーテンを開け、外が見えるようにしている。リビングにカウチの長椅子を置き、座位が困難な方もリビングで過ごされている。保育園児の似顔絵や行事の写真を楽しめるように、廊下にもソファを置かれている。グッピーやめだかも癒しになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫し考えている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と一緒に工夫している。	入居時にご本人や家族に好みの壁紙を選んで頂ける場合もある。家族や園児との写真、絵画、お花等が飾られ、仏壇やタンス、籐の椅子、テレビ、冷蔵庫等を持ち込まれている。洗濯物を部屋に干している方もおられ、日中もベッド上で過ごされる時は、好きなラジオを聴かれている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				